

ハイバイ「おとこたち」

7月3日(木)～13日(日) シアターイースト 詳細はP9へ



作・演出:岩井秀人  
出演:安藤 聖、岩井秀人、岡部たかし、菅原永二、永井若葉、平原テツ、川松 亮

主催:ハイバイ/quinada 助成:文化庁文化芸術振興費補助金(トップレベルの舞台芸術創造事業) 提携:東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)

### 岩井秀人が手掛ける、男たちの大河ドラマ?!

2003年に旗揚げした劇団ハイバイ。10代後半ひきこもりだったという主宰の岩井秀人が、個人的な体験を濾過して人生の悲喜劇に転換、ペースに満ちた作品群が観客の心を揺さぶる。劇作家で演出家、俳優でもある彼は、映画、テレビドラマ、バラエティ番組、CMなどの出演歴も。

2012年にNHK-BSプレミアムドラマ『生むと生まれるそれからのこと』で向田邦子賞、翌年『ある女』で岸田國士戯曲賞を受賞。岩松了

や平田オリザらに影響を受けながらも、独創性に満ちた作劇を続ける。

2年ぶりの新作は、性欲期から死期までの男たちを描く大河ドラマ?! 家族間の軋轢、葛藤、確執、トラウマを描き、痛みを伴う笑いの中にままたらない人生の奥深さを見せるハイバイ。今のままでいたいと思いつつ経年変化には抗えない、人間が背負う業ともいふべきテーマに挑む。岩井が作品について語り尽くすスペシャルトークもお見逃しなく!

芸劇eyes はえぎわ「ハエのように舞い 牛は笑う」

8月23日(土)～31日(日) シアターイースト 詳細はP12へ



第26回公演「ガラバコソバコソ ～進化してんのかしてないのか」  
作・演出:ノゾエ征爾  
出演:井内ミワク、町田水城、鈴真紀史、滝 寛式、竹口龍茶、踊り子あり、川上友里、島島 明、富川一人、山口航太、ノゾエ征爾、笠木 泉、上村 聡(遊園地再生事業団)、河井克夫、橋 花梨

主催:はえぎわ 提携:東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)

### 結成15年、ノゾエ征爾が見せる新境地

主宰のノゾエ征爾が大学在学中の1999年に始動、今年15年となる劇団はえぎわ。全作品の作・演出を手掛けるノゾエは、2011年に『春々』で岸田國士戯曲賞最終候補ノミネート、翌年『〇〇トアル風景』で同賞受賞という快挙を達成した。俳優としても活躍し、数々の舞台、映画、テレビドラマ、CMに出演。寄席の楽屋を描き、2013年に公開された神田裕司監督の映画『TOKYOでやんでい』では堂々と主演を務めている。

オリジナリティに富んだ物語、センスのいい笑いと巧みな演出で立ち上がるノゾエワールドが観客を魅了。人間という可笑しくも悲しい存在を独自の視点で捉え、ユーモアを折り込みながら綴る。「チョークと描ける壁があればできる演劇」で新境地に達したというが、15年の重みを軽々と飛び越えるだろう新作に期待がふくらむばかり。元SAKEROCKのベースト、現在はショピン等のメンバーとしても活動する田中馨の生演奏も楽しみだ。

主催:はえぎわ 提携:東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)

芸劇dance BATIK「落ち合っている」

9月4日(木)～7日(日) シアターイースト 詳細はP13へ



ソロ作品「落ち合っている」(2014年3月)

構成・振付:黒田育世  
出演:伊佐千明、大江麻美子、寺西理恵、中津留絢香、矢嶋久美子、黒田育世

※キャスト日替り、詳細はBATIK HP(http://batik.jp)にて

主催:BATIK 提携:東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)

### 父の死と娘の誕生がもたらした“生き抜く力”

2002年の結成から12年、国内外の公演で評価が高まるBATIKは、振付家でダンサーの黒田育世率いる女性だけのダンスカンパニー。トヨタコレオグラフィアワード:次代を担う振付家賞、朝日舞台芸術賞、舞踊批評家協会賞など数々の受賞歴を誇る黒田は、コンテンポラリーダンスシーンを牽引するフロントランナーのひとり。NODA-MAP作品への振付、中島哲也監督の『告白』出演など、ダンスの枠に留まらず、演劇や映画などジャンルを

軽やかに越境した活動を展開中だ。

昨年父を亡くし、娘を出産した黒田。ふたりはあたかも彼女の中で「落ち合っていた」のかもしれないと感じたという。死ぬ準備として創り始めた前作『おたる鳥をよぶ準備』を経て、今回のテーマは“生き抜く力”と“踏みとどまること”。脈々と受け継がれるいのちの営みを、今この瞬間を生き抜き、ここに踏みとどまるダンサーの躍動する身体を通して、ヴィヴィッドに見せてくれるはずだ。

主催:BATIK 提携:東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)

eyes plus サンプル「ファーム」

9月19日(金)～28日(日) シアターウエスト 詳細はP14へ



「シフト」

作・演出:松井周  
出演:古屋隆太、奥田洋平、野津あおい、羽場睦子、金子岳憲、町田マリー

主催:サンプル/quinada 提携:東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団) 助成:芸術文化振興基金

### 松井周が放つ1年ぶりの新作に町田マリーが登場

離婚に向け、話し合いを重ねる夫婦。息子もいて、この先なにをモデルに生きていくべきだろうかと途方に暮れる彼らは、人を、モノを、物語を疑い、その間を彷徨う……。

3月にシアターイーストで旗揚げ公演『シフト』の再演を成功させたばかりの劇団サンプルが、今度はシアターウエストに登場。旧作2本の再演を経て、1年ぶりとなる待望の新作を発表する。劇団青年団所属でサンプル主宰の松井周は、気鋭の劇作家で演出家。2年続けて岸田

國士戯曲賞ノミネート、3年目に『自慢の息子』で受賞という、確かな実力の持ち主だ。今回はある家族の物語を軸に、新たに生まれる生命と共有される精神、ヒト、モノ、イキモノのこれまでとこれからを描く。

劇団毛皮族の旗揚げメンバーにして看板女優、町田マリーがサンプル初出演。舞台上に留まらず映画やドラマに活躍の場を広げ、いっそう輝きを増している町田が松井の演出にどう応えるのか、期待して劇場へ。

二兎社公演 39「鷗外の怪談」

10月2日(木)～26日(日) シアターウエスト 詳細は劇場HPへ



作・演出:永井 愛  
出演:金田明夫、水崎綾女、内田朝陽、佐藤祐基、高柳絢子、大方斐紗子、若松武史

### 明治の文豪・森鷗外。その秘められた内面とは?

舞台は明治末期。政府が思想や言論の弾圧を推し進める中、文学者として表現の自由を尊重する森鷗外は、一方で陸軍軍医総監・森林太郎として国家権力側の要職にあった……。

国歌斉唱、シングルマザー、官僚主義など現代の問題点をユーモラスに、また痛烈に風刺した作品に定評がある二兎社の新作。主宰で劇作家・演出家の永井愛は、個人や家族の日常を描きながら社会問題を丁寧に掬い上げる。観

た後しばらく心のどこかに留まり、余韻を残す作風が印象的だ。

2年ぶりの書き下ろしとなる今回は、明治の一大謀略事件「大逆事件」を背景に、森鷗外のミステリアスな内面に迫る。表現者と軍職者、相反する2つの顔を持ち葛藤や矛盾を抱えていたに違いない文豪の数奇な運命。また、近代日本という時代を永井がどう描くのか、大いに注目を。

料金:一般=5,600円/25歳以下=3,000円(枚数限定・要証明書提示)/中高生=1,000円(枚数限定・要学生証提示)  
チケット発売:8月9日(土) ふれいす 03-5468-8113

主催:二兎社 提携:東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)

eyes plus 富士山アネット/Manos.「醜い男」

9月5日(金)～16日(火) アトリエイースト 詳細はP15へ

### 鋭い空間演出が映し出す、戯曲に潜む「美」



主催:富士山アネット 提携:東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団) 助成:芸術文化振興基金

「ダンス的演劇(テアター・タンツ)」を標榜し、独自の舞台を提示してきた富士山アネット。演劇に特化したユニット、富士山アネット/Manos.として挑むのは、30カ国以上で上演されている、ドイツ現代作家による『醜い男』。ブラックユーモアにまみれた現代の鏡の様な本作に、見えない「美」を映し出す。

原作:マリウス・フォン・マイエンブルク  
翻訳:林 立騎 構成・演出・振付:長谷川準  
出演:板倉チヒロ(クロムモリブデン)、中林 舞、大原研二(DULL-COLORED POP)、福原 冠

「ポリグラフ ―嘘発見器―」

10月19日(日)～11月2日(日) シアターイースト 詳細は劇場HPへ

### ルパーージュ初期代表作の吹越演出版、待望の再演



構想・脚本:マリー・ブラッサール、ロベール・ルパーージュ

翻訳:松岡和子  
演出:吹越 満  
出演:森山開次、太田 絳、ロランス、吹越 満  
お得な早割(枚数限定)7月13日(日)より発売  
一般発売 8月3日(日)  
\*東京公演に先駆けて7/9、11月からは、広島、札幌公演も。

主催:東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)  
東京都/東京文化発信プロジェクト室(公益財団法人東京都歴史文化財団)  
助成:平成26年度文化庁劇場・音楽堂等活性化事業  
著作権代理:(株)フランス著作権事務所

2012年、吹越満による新演出で上演され、視覚的に強いインパクトのある斬新な舞台が高い評価を得た。熱い再演希望の声に応えて、今秋、パリ公演を皮切りに同じキャストによる上演が遂に実現! 男女3人の人間関係のミステリアスな展開を「身体」と「視覚」のトリックで描き、観客を美しい“迷宮”へと誘う。